さくらぐみ第1・2・3・4学年国語科学習指導案

町田市立　小山小学校
2026年11月13日（金）5時間目
対象 さくらぐみ第1・2・3・4学年 6名
指導者 T1 教諭 長坂 智恵子
T2 支援員　宮代　由美

1 単元名 「とい」と「こたえ」にきをつけてよみ、いきもののあしのひみつをみつけよう
教材名 「いきもののあし」

2 単元の目標
〇写真や具体物と文章とを結びつけながら、内容の大体を読むことができる。（知識及び技能）
〇「問い」や「答え」をつなげて捉えることができる。また、動作化を通して、それぞれの生き物のあしの特徴（つくり）やはたらきを読み取ることができる。（思考力,判断力,表現力等）
〇「問い」と「答え」の文章構成を使い、自分の知っている生き物について簡単なクイズをつくることができる。（思考力,判断力,表現力等）
〇生き物のあしの仕組みに興味をもち、進んで文章を読んだり、分かったことを友達に伝え合おうとしたりする。（学びに向かう力,人間性等）
〇自分の選んだ生き物のクイズを作り、お互いの良さを認め合いながら発表しようとする。（学びに向かう力,人間性等）

3 単元の評価規準

	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①生き物の名前などのひらがなの単語を正しく読み、書き写したり、正しい写真を選んだりすることができている。 ②語や文としてのまとまりを意識して音読したり、「問い」と「答え」を見つけたりすることができている。	①具体物を見て、記述に合う物を選ぶことができている。 ②文中の言葉や具体物をヒントにあしの「特徴（つくり）」や「動き（はたらき）」を大まかにとらえることができている。 ③あしの「特徴（つくり）」と「動き（はたらき）」について、文章の言葉に着目して読み取ることができる。また、動作化を通して、言葉の意味を具体的に捉えることができている。	①友達や教師と一緒に生き物の動作化に意欲的に参加しようとしている。 ②自分で読み取ったことを友達に分かりやすく教えたり、伝えたりしようとしている。

4 単元構想
（1）児童について（児童観）
本グループは、1年生1名、2年生1名、3年生2名、4年生2名の計6名で構成されている。国語においては、ひらがなの単語を一文字ずつ読むことができる段階から2学年程度の文章を読んで意味を読み取ることができる段階まで、児童の学習状況は大きく異なり、個別の学習においては、それぞれに合った教材を学んでいる。また、協働的な学びに向けて、同じ教材を一緒に音読したり、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりしながら学習を進めている。自分ができるようになったことに気づいたり、友達と共にできたことを喜ぶ姿が見られたりするようになってきている。

（2）教材について（学習材観）
本教材は、「いきもののあし」の特徴（つくり）と動き（はたらき）について三つの事例を取り上げた文章である。各事例では、「これは、なんの あしでしょう。」という「問い」に対して、「これは ○○の あしです。」というように「答え」を簡潔に説明している。また、「答え」に続く文では、それぞれの「特徴（つくり）」に合った「動き（はたら

き）」が説明され、文章構成が捉えやすく、児童が興味をもちやすいものとなっている。
　国語科の本単元においては、いきもののあしについて書かれていることを動作化して見合い、確かめる中で、「あしの特徴（つくり）」と「動き（はたらき）」について互いの考えを伝え合ったり、聞き合ったりして協力して学習できるような活動を考えた。
　また、それぞれの発言を板書して残していくことで、自分の考えや友達の考えを振り返ることができるようにした。

（3）単元について（単元観）

　本単元では、まず「問い」の文末表現（～でしょうか）に着目させ、そこに対応する「答え」の文を見つける活動を繰り返し行う。その際、「あし」に見立てた具体物と本文の叙述を結び付けて動作化し、言葉の意味を視覚的にも実感できるように工夫する。また、ワークシートを活用して、「問い」と「答え」を整理させ、文章のまとまりを意識できるようにする。その際、文章を書き抜くことが難しい児童には、選択肢から選ぶようなワークシートを用意するなど個別の支援を行う。
　さらに、単元の終末には、本単元で学んだ「問いと答え」の構成を生かして、自分が選んだ別の生き物の足について「クイズ」を作り、友達と出し合う活動を設定する。これにより、読むことから書くこと・話すことへと学習を発展させ、主体的に言葉の力を活用する態度を育てたい。

5 研究主題に迫るための手だて

【自己理解】

①動作化の工夫

・動物の動きを動作化することで、動物のあしの働きへの理解を深め、「わかった」という実感をもてるようにする。また、同じ活動を 3 回繰り返すことで、安心して活動に取り組むことができると考えた。

【他者受容】

①交流活動の工夫

・どのような足なのか選ぶ過程で、本文を読み返し、それぞれが読みとったことを交流し合うことで、理解を深めることができると考えた。また、動作を互いに見合うことによって本文に書かれていることをより具体的に捉え、理解を深めることができると考えた。

6 単元の指導と評価の計画 （全8時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	・評価規準 〇方法
1	1	学習の見通しをもつ。 ・いきもののあしについて知っていることを出し合う。 ・写真を見て「問い」の「答え」を予想し、内容の大体を知る。	・生き物の足への興味をもつことができるように写真を示し、どのような動物が出てくるか予想させる。 ・「問い」「答え」の繰り返しになっていることに気付かせる。	・これまでの体験で知っていることを思い出し、分かったことや考えたことを伝えようとしている。〇発言
2	2 3 本時 4	①本文と写真を対応させながら、何の足が取り上げられているのかを確かめる。 ②それぞれの足について「問い」と「答え」を確認し、動作化しながら「特徴（つくり）」や「動き（はたらき）」を読み取る。	・「問い」と「答え」を確認し、「答え」の後に、詳しく説明している部分があることを確かめる。 ・いきもののあしの「つくり」と「はたらき」が捉えられるようにする。	・生き物の名前を文章の中から正しく読み取り書き写したり、正しい写真を選んだりすることができる。 〇発言、観察 ・文中の言葉や具体物をヒントにあしの「特徴（つくり）」や

				「動き（はたらき）」を大まかにとらえることができる。 〇発言、ワークシート ・友達や教師と一緒に生き物の動作化に意欲的に参加しようとする。 〇発言・観察
	5	「問い」と「答え」という文章形式を確かめながら音読をする。	・ペアになって、「問い」の文を相手に尋ねるようにして話したり、文や語のまとまりが伝わるように音読したりできるようにする。	・まとまりを意識して音読したり、「問い」と「答え」を見つけたりすることができる。 〇観察
	6 7 8	もっと知りたいと思ったいきもののあしについて調べ、「いきもののあしクイズ」を作って出し合う。	・調べたものをもとに 「問い」と「答え」の文章を作り、いきもののあしの「つくり」と「はたらき」を説明する。	・「問い」と「答え」の順序で説明することのよさに気付き、それを生かしてクイズを作ろうとしている。 〇ワークシート、観察

7 本時の学習（3／8時間）

（1）本時のねらい

・本文と写真を対応させながら、何の足が取り上げられているのかを確かめる。

・らいおんのあしについて「問い」と「答え」を確認し、動作化しながら「特徴（つくり）」や「動き（はたらき）」を読み取る。

（2）展開

	学習活動	・指導上の留意点 〇評価(評価方法)
導入	1 歌「いきもののあし」を歌いながら、あひるのあしのつくりとはたらきを振り返る。 2 今日の足の絵を見て 何の足か予想する。 「これは なんの あしでしょう。」 3 音読をして、動物の名前を読み取る	・前時に学習したあひるの足の特徴を歌で表しながら、「みずかき」や「すいすいとおよぐ」などのキーワードを思い出せるようにする。 ・次のページを読んで何の足かわかる単語に線を引き、読み取れるように支援する。 〇動物の名前を文章の中から読み取ったり、写真を選んだりすることができている。（観察） A 児
展開	4 音読をして、らいおんのあしのつくりを読み取る。	・らいおんの足の特徴が読み取れるように、「まるくて やわらかい」物と 「しかくくて かたい」物を用意する。 〇「まるくて やわらかい」という言葉を読み取り、材料から選ぶことができている。（観察）BCDEF 児
	らいおんのあしは、どのようなあしかな。よみとって、まねをしてみよう。	

	5「まるくて やわらかいもの」をつけた足で歩いてらいおんの動きをし、見合う。 自 他	自己理解① 児童個別の実態に合わせた学習方法を選択できるように、文章・足の模型といった教材を準備し、いつでも使えるようにする。 他者受容① 児童がお互いの学習活動を見合えるような環境を設定することで、本文についての理解がより深まるようにする。 ○「そっと ちかづく」を理解し、動作化したり、見て真似したりすることができている。(観察) ※動作化 A 児 見て真似する BCDEF 児
終末	6 らいおんのあしについてワークシートにまとめる。 7 ふりかえりをする。 ①どのようなことがわかったか。 ②ともだちのよさ。 ③つぎにしたいこと。	○らいおんのあしの「つくり」と「しくみ」を文章から読み取ることができる。(ワークシート) ※「つくり」 AB 児 「しくみ」CDEF 児 ・子どもから出てこない場合は、指導者が評価し、価値づける。 ○楽しく動作化している。(観察) AB 児 ○友達の動作化を見てアドバイスをするなど、一緒に学習することができている。(観察) CDEF 児

(3) 板書計画

